

< 目 次 >

- 1 第9回 あいち防災リーダー会定期総会
- 2 家具転倒防止ボランティア養成講座に参加して 稲沢 村松功雄
- 3 濃尾大地震から災害を学ぼう 一宮 石垣辰夫
- 4 北名古屋回想法センター勉強会（防災について） 北名古屋 山崎澄雄
- 5 県消防学校で学ぶ（本部第1回研修） 清須 吉田陽一
- 6 一宮リバーサイドフェスティバル及びナゴヤハウジングセンター
春祭りに参加して 一宮 伊藤元博
- 7 第4回名古屋港湾防災施設見学&研修会に参加して 清須 岸本洋美
- 8 防災よもやま話 NO.32 名古屋大学大学院教授 福和伸夫
- 9 お知らせ 掲示板 四国1泊研修・ファシリテーター講習会

1 平成23年度（第9回）あいち防災リーダー会定期総会

平成 23 年 4 月 24 日(日)午後 1 時半から、第 9 回あいち防災リーダー会定期総会が、名古屋港湾会館 2 階第 1 会議室にて開催されました。

来賓として福和伸夫名古屋大学大学院教授、愛知県防災局危機管理課より夏目吉昌課長・松浦主査・黒原主査・恒川主事・福田主任の 5 氏と、NPO 法人あいち防災リーダー育成支援ネット太田貴代子理事長（APLA 相談役）をお迎えし、本部役員・代議員合わせて 54 名、傍聴者 40 名の出席により、議案のすべてが慎重に審議され、承認されて新年度のスタートをされました。



2 家具転倒防止ボランティア養成講座に参加して

稲沢 村松功雄

稲沢市社会福祉協議会主催により3月22日(火)社会福祉会館にて1人暮らしの高齢者宅などで、大地震発生時の家具の転倒を防ぐための、金具取り付けなどを行うボランティアの養成講座が開催されました。3月11日には東日本大震災が発生した直後の養成講座であり、非常に関心が高く有意義な講座でした。

第1部として わがやネット代表 児玉道子博士により「家具類の転倒防止対策のすすめ」についてスライド等を使用してわかりやすく次の説明をしていただきました。

- 1) 大地震発生時における被害状況
- 2) 被害者の負傷原因は家具類の転倒原因が7割を超えている事
- 3) 年齢別では60才以上が過半数を占めている事
- 4) 家具類の固定金物の種類

ボランティア活動での「家具類の転倒防止対策のすすめ」について、施工養成研修から自主防災会等との連携・施工にいたるまでの取り組みについて、幸町での実例を交えて広報啓発から施工に至るまでの流れを説明していただいた。

第2部として 静岡県防災用品普及促進協議会の転倒防止用品製造・販売元大石製作所大石修三氏によりL字型金具・突っ張り棒・ワイヤー・ベルト等を使った固定具等の最新製品の展示紹介と「家具固定・ガラス飛散フィルム貼りの方法について」演習もありました。



南海トラフでの巨大地震「東海地震」は明日起きてもおかしくないと言われ、今後30年の地震発生確率は87%と非常に高く、東南海・南海地震との連動発生も考慮する必要があると言われています。

家具固定を促進するには、住民の意識が重要であり意識を変えるには地域コミュニティでの地道な啓発活用が重要です。防災ボランティア稲沢では、1月に家具転倒防止研修を実施しています。今回の研修を受講して得た知識・経験を地域社会に展開し家具転倒防止を促進しようと考えています。

3 濃尾大地震から災害を学ぼう

一宮 石垣 辰夫

3月11日東日本大震災が発生し、大津波、原発事故など未曾有の大災害となりました。こ



の地方では今から120年前に当地史上最大級の直下型地震「濃尾大地震」が美濃・尾張地方に起り、その規模はM8.0でした。

中島郡大徳村富田（現一宮市）の某兄弟が、地震を経験して生の記録を後世に残すため昭和26年「富田風土記」を記述し、著者両氏没後、その子息が、昭和38年本書を刊行されました。その概要についてまとめたので参考にしてください。

濃尾大地震 明治24年(1891)10月28日午前6時39分 突然襲来した大地震は、前古未曾有の被害であった。ソレ地震だと自覚して、走り出した者は、殆んど無く、皆無我夢中に反射的に飛び出したものである。

屋外に出ても佇立^{ちよりつ}する事は出来ないで、皆地上に転々した（震幅1尺余）されば、家屋は殆んど倒れざるはなく、僅かに残れるものは、内張りのある土蔵とか、壁筋違のある家屋であった。激震の時間は約5分間であったが、遭難者達には、ながい永い時間の様に思われた。

而^{しこう}して、其の後も余震が断続して襲来し、其の度毎に肝を冷やした。之は、十数日間も続いた地面には^{たちま}忽ち亀裂を生じて、其の割れ口が幅1尺にも及ぶ所が少なくなかった。処によっては、亀裂口や井戸から地下水が盛に湧き出して終日続いた。

地震の激動が止むと同時に阿鼻叫喚^{あびきょうかん}の声が方々に聞え出した。皆倒れた家の下に伏せられて居るのである。然れども、道具は皆倒れた屋内にあるので、人々アレヨ・アレヨと立騒ぐのみである。殊^{こと}に悲惨な事は斯る折柄不幸にも出火した事である。中島利兵衛（現戸主利一郎氏）方が実に其の例であって、老婆1人焼死した。

目を上げて眺むれば、今や竹ヶ鼻・大垣・岐阜・笠松などの都市は、猛火に包まれ、黒煙濛々東に流れて居る。此の被害は、震源地たる岐阜県本巣郡根尾谷に近づく程甚大を極めた。

大徳村（現一宮市富田・西五城・東五城・北今・蓮池・西萩原）の被害は死者58名・重傷者21名、倒壊住宅717棟・土蔵21棟・其の他の建物617棟・社寺7棟、半壊住宅21棟・土蔵39棟・其の他75棟全焼住宅2棟であった。

東京から医科大学教師ドクトル、ユリユ・ス、スクリッパ氏は、上司の命を受け医学士4名・学生13名を卒ひて来援し、11月3日本部を一宮に第一支部を黒田に第二支部を起大明神社境内に設け起には医学士逸見文九郎・田村光顕を主任とし愛知医学校学生3名を配して、被害者の治療に従事した。11月5日勅使として侍従北條氏恭子爵、11月15日には小松宮彰仁親王殿下が殿下の御名代として、御慰問があり恩賜金・救済金・特志家の義捐金・鰥寡孤独者指定義捐金品、小屋掛料・食料救助金・農具料・種穀料等恩賜と同情との渥きに罹災者一同をして感激せしめた事であった。

【別途被害資料】

大地震被害比較表

地震名	濃尾大地震	関東大地震	阪神淡路大地震
発生年月日	1891.10.28 (明治24年)	1923.9.1 (大正12年)	1995.1.17 (平成7年)



発生時刻	午前 6 時 38 分	午前 11 時 58 分	午前 5 時 46 分
震 央	岐阜県本巣郡根尾村	神奈川県相模湾	兵庫県淡路島
地震型	直下型地震	海溝型地震	直下型地震
マグニチュード	M 8.0	M 7.9	M 7.2
死 者 (人)	7,273	105,385	6,432
負傷者 (人)	17,175	103,733	43,792
全壊家屋 (棟)	142,177	109,713	104,906
半壊家屋 (棟)	80,324	102,773	144,274

濃尾地震被害地区別状況

被害項目	人的被害 (人)		家屋被害 (棟)		その他(箇所)
	死 者	負 傷 者	全 壊	半 壊	山 崩 れ
美 濃	4,889	12,311	70,048	30,994	9,929
尾 張	2,331	4,550	67,771	43,570	29
そ の 他	53	314	4,358	5,760	266
合 計	7,273	17,175	142,177	80,324	10,224

木曾川左岸の一宮市玉ノ井・奥町・小信中島・起・富田・東のう加賀野井・祐久・西中野周辺は、建物の90%前後が倒壊しました。

4 北名古屋市回想法センター 勉強会(防災について) 北名古屋 山崎澄雄

平成23年4月27日(木)北名古屋市回想法センター(旧加藤家住宅内)で愛知県防災局が出している、あっ!どうする? そうなる前の防災対策のDVDを上映しました。参加者は65歳以上の方で一般15名、防災ボランティア7名でした。

内容については

1. 最大の備えは地震に強い家 ~耐震診断、耐震改修のすすめ~
2. 防災の一步は具体策から ~危険な家具から身を守るには~
3. 大地震は必ずやってくる ~備えに役立つ地震の知識~
4. 被災後に備える ~備蓄と非常持ち出し品~
5. 地震発生!その時どうする? ~ケース別避難の方法~
6. 自分たちの町は、自分たちで守る ~広げよう地域防災の輪

(以上67分)

休憩をはさんで新聞紙でスリッパ作りをする。

皆さんの反響はよかった又解り易いとのことでした。帰られた方からも電話を頂き非常に

良かった。市の職員さんからも良い報告を頂き今後も繋げていこうと思います。



<北名古屋での紙スリッパ作り>

5 県消防学校で学ぶ(本部第1回研修)

清須 吉田陽一

6月4日 APLA 主催の県消防学校体験学習に30名が参加しました。

佐藤教官(元海部消防)により講話ビデオ・パワーポイント資料で東日本大震災の状況及び発生メカニズムを解説して頂き、海上における津波のスピード 600 km/H 飛行機同等(チリ地震の津波 24H後に 日本に到来)の速さにびっくりしました。TV 映像によく出る 畑を津波が進むスピードは、30 km/Hで 概算100m/10秒 とても逃げられない速さである。

現状は、阪神・淡路大震災から直下型活断層地震の活動期に入ったとも言われ十分な備えが必要である。

体験研修は、地震体験 - 煙道体験 - 消火体験 - 人命救助体験の基本技法を体験した。地震体験で1分半程の揺れが5分以上に長く感じる。煙道体験では煙は熱い! 吸込むと気道熱傷キケン有り、口・鼻にはハンカチできれば網目粗いタオル当てる。

消火体験では、燃える三要素: 燃えるもの・酸素・熱 を一つでも取り除くと消える、消火器は 酸素を取り除く、水打ちは 熱を取り除くことを学ぶ。崩壊家屋救出体験は 6人程度の班編成(3ケ班)し、リーダー・各作業担当を明確に決めて、リーダー指示に従い 安全確認をし 全員に周知させて 救出活動した。救助道具として 5cm角以上の棒、10cm角以上の角材が必要となる。

上記の研修で 再確認した事を 訓練に活かし 減災活動の推進に役立てる。同センターは一般体験も受入れ(事前申込み)地域研修アイテムとしても有意義である。今回体験以外に ロープ結索法体験もある。

6 一宮リバーサイドフェスティバル及びナゴヤハウジングセンター春祭りに参加して

一宮 伊藤元博

5月3日～5日の3日間、一宮138タワーパークで開催されたリバーサイドフェスティバルに2日目に参加しました。昨年に続き2回目の参加です。一宮の防災ボランティアグループや西尾張ブロックからも参加があり、3日間で40名ほどの参加でした。

連日快晴で人出も大変多く、有意義なイベント活動ができたと思っています。今年は、塗り絵・非常持ち出し品ゲームを中心に家具転倒防止の展示パネルや展示品・卓上ぶる君・消防署が行う高所作業車や放水訓練などのお手伝いなどを実施しました。子どもには塗り絵を、親には待ち時間を利用して非常持ち出し品ゲーム・震度6強シュミレーションゲーム・家具転倒防止の説明などを行い、大変好評でした。3日間で来場者は1000名以上になったとみられます。今年は東日本大震災の関係でいつも来場者に配る乾パンなどがなく、代わりに花のタネとティッシュペーパーのみで来場者にがっかりさせてしまったのは残念でした。



5月7日・8日の2日間、ナゴヤハウジングセンター一宮会場（丹陽町）における春祭りに私は初めて参加しました。5年ほど前に一度当会も参加したとのことでしたが、ここ数年途絶えており久しぶりの参加と聞きました。啓発内容は塗り絵・非常持ち出し品ゲームを中心に家具転倒防止や20年8月集中豪雨の展示パネルも掲げました。20年8月集中豪雨の被災地は会場の近くなので、来場者には関心を持っていただきました。



展示コーナーには、中部電力のコミュファやセコム・総合警備保障のホームセキュリティ、三菱自動車の電気自動車、ダスキンの掃除講座など各社工夫をこらして啓発をしていました。

7 第4回名古屋港湾防災施設見学&研修会に参加して

清須 岸本洋美

6月3日（金）9時半、名古屋港ガーデン埠頭にて集合し、防災リーダーを含む50数名のメンバーが名古屋港管理組合が用意してくれた船に乗り込み、約1時間45分間、湾内を視察・研修しました。船内はきれいで、窓側には1人がけの椅子、中央に会議用（？）の大きなテーブルとイメージしていたより、立派な船でした。

担当者から湾内の説明、参加者からは質問等が活発に行なわれ、東日本大震災での津波災害の影響から「名古屋港は大丈夫か？」という視点で皆さん真剣・熱心な発言ばかりでした。まず掘川口防潮水門へ、市街地への高潮・津波の侵入を阻止するため、堀川の河口に延長270メートルの防潮水門（写真）また乗船前には防潮扉閉鎖訓練も行なわれていました。地震対策では浮体式防災基地（ミニフロート）があり、全国でも3箇所だけとのこと。6メートルの高さの中に備蓄物資等保管してあるそうです。ちょうどこの頃、福島原発に向け横浜からミニフロートが出港したそうです。また、伊勢湾台風の教訓から高潮防波堤が鍋田干拓から知多堤へと約7.6キロメートル、高さN.P（名古屋港基準面）+6.5メートルで建設されています。質問でも「この高さで大丈夫か？」と厳しく追及される場面もありました。そして、少し沖に出ると、多くのコンテナが岸壁に積み上げられ、横には大きな貨物船が待機「このコンテナも津波では流される？」との心配に耐震強化を整備した岸壁「大江ふ頭・潮風ふ頭」などの説明もありました。また、知多半島などの火力発電所・ガスタンクなども見え、「地震でどうなる？」そして埋め立てによる液状化など等の質問・・・課題は多い。この30年以内に起こるであろうと言われる東海・東南海・南海地震・・・先の東日本大震災を思う時、参加者は「この名古屋港は本当に大丈夫？」との不安や疑問は大です。当局はハード面には莫大な費用がかかるため国の交付金がなければ・・・との苦しい答弁です。



久しぶりに心地よい潮風を受けながら、初めて名古屋港湾見学に参加し大変勉強になりました。今後とも地域防災に役立てられるよう頑張って参ります。

8 防災よもやま話 No.32 東日本大震災に見る歴史の大切さ

名古屋大学大学院教授 福和伸夫

APLAの皆さん、こんにちは。

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、我が国観測史上最大の地震となりました。マグニチュードは9.0、宮城県栗原市築館での最大震度7を始め、東北地方から関東地方の広域で震度6弱以上の揺れとなり、太平洋岸には、高さ10mを超える津波が来襲し、堅牢な防波堤をも破壊し、全てを洗い流しました。三陸地方は、明治以降だけでも、1896年明治三陸地震津波、1933年昭和三陸地震津波、1960年チリ地震津波など、度重なる津波災害を経験しており、防災意識も高く、防波堤や避難訓練など様々な津波対策を施していました。それにも関わらず、15,000人を超す犠牲者を出し、震災から3カ月たった今でも、8,000人を超える人たちが行方不明になっており、10万人にも及ぶ人たちが避難生活をしています。被災地の光景は想像を絶するものでした。一面、何も無くなっている場所、墓場のように瓦礫が残

る場所など、この豊かな日本の社会で、このような光景を見erとは思っていませんでした。下の写真は、5月22日の夕刻に、仙台市若林区の荒浜で、海岸から仙台中心地に沈む夕日を見た景色です。遠くに見える高層ビルの前に広がる荒蕪たる景色を決して忘れることはできません。



一方、福島第一原子力発電所では、津波による非常用電源の喪失により炉心溶融が起こり、広域で放射能汚染が発生し、多くの住民が、避難生活を余儀なくされ、計画停電も実施されています。絶対に起こしてはいけない災害でした。原子力発電施設の設計に関わった一人として、想像を絶する状況を目にし、無念です。

首都圏では、長時間・長周期の地震動によりタンク火災が発生し、高層ビルは強い揺れに見舞われました。鉄道の運休により多くの帰宅困難者を出し、高機能現代都市の脆さが露わになりました。私も、当日は、東京青山にある23階建ての高層ビルにいました。15階にあるセミナー室で、長周期地震動に対する高層ビルの揺れについて話をしていたところで、正に長周期の揺れを体感しました。揺れがドンドン大きくなり、いつまでも揺れ続けました。窓からは、余震のたびに左右に揺れる高層ビル、遠方に立ち上がる煙が見え、その後、錯綜する情報、エレベータの停止、コンビニでの品物の売り切れ、帰宅困難など、大都市の抱える課題を実感しました。

政府は、4月1日の持ち回り閣議において、この災害を東日本大震災と命名しました。経済被害は25兆円に上るとも言われ、国民一人当たり20万円程度の負担が必要となります。

まずは、この震災で犠牲になった方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げたいと思います。私たちができることは、被災地の復興をできるかぎり支援することと、この震災から少しでも多くを学びとり、来るべき巨大地震の被害を少しでも減らすことしかありません。

APLAの皆さんも同様と思いますが、3月11日以降、繁忙を極めており、文章を書く時間をとることがなかなかできません。皆さんは、この3ヶ月間、新聞やテレビなどで私以上に色々勉強されていると思います。そこで、この震災そのものについての話は次回以降に譲ることに



して、今回はまずは第 1 報として、869 年に発生した貞観地震のことや、その伝承のことについてお話ししたいと思います。

東日本大震災は 1000 年に一度の震災と言われています。同様の地震は、平安の初期、貞観時代に発生したようです。1990 年に東北電力女川原子力発電所建設所の技師、阿部壽氏他が、仙台平野の津波堆積物から、平野内で津波被害があったことを証明しました。さらに、六国史の時代の最後の正史・日本三代実録に記された仙台・多賀城での津波の記述と対比することで、869 年貞観地震であることを突き止めました。このこともあり、女川原子力発電所は高さ 20m 以上の崖の上に作られ、今回の地震でも事なきを得たのかもしれませんが。その後、東北大学や産業技術総合研究所の研究者らが、津波浸水域についての詳細な調査を行い、震源域についても検討が行われました。今回の震災は決して想定外ではなかったようです。

日本三代実録には、貞観地震のことが次のように記述されています。

「貞観十一年五月廿六日癸未。陸奥国大地震動。流光如昼隱映。頃之。人民叫呼。伏不能起。或屋仆压死。或地裂埋殆。馬牛駭奔。或相昇踏。城郭倉庫。門櫓牆壁。頽落顛覆。不知其数。海口哮吼。声似雷霆。驚濤涌潮。浜徊漲長。忽至城下。去海数十〔千〕百里。浩々不弁其涯涘。原野道路。忽為滄溟。乘船不違。登山難及。溺死者千許。資産苗稼。殆無子遺焉。」

これは次のように現代語訳されています。

「貞観 11 年 5 月 26 日、陸奥の国で大地震があった。昼のような光が流れて、光ったり陰ったりした。しばらくして、一般の人たちは大声を出し、地面に伏して起き上がることができなかった。あるものは家が倒れて圧死した。あるものは地面が割れてその中に落ち埋まって死んだ。馬や牛は驚いて走り、あるものは互に昇って足踏みした。城郭や倉庫、門・櫓・土塀・壁が崩れ落ちたり転倒したりしたが、その数は数え切れないほど多い。海では雷のような大きな音がして、物凄い波が来て陸に上った。その波は河を逆上ってたちまち城下まで来た。海から数千百里の間は広々した海となり、そのはてはわからなくなった。原や野や道はすべて青海原となった。人々は船に乗り込む間がなく、山に上ることもできなかった。溺死者は千人ほどとなった。人々の財産や稲の苗は流されてほとんど残らなかった。」

多賀城は、律令時代に、陸奥国に設置された国府で、蝦夷討伐の最前線の重要拠点だったようです。724 年に多賀城が作られるまでは、郡山遺跡（現在の仙台市太白区）に国府があったようです。飯沼勇義（仙台平野の歴史津波、宝文堂、1995）によると、700 年ごろに当地を襲った津波の後に、都から鬼門の方向であった郡山から多賀城に国府を移動したと説明されています。多賀城は大宰府と並ぶ東国の最重要拠点であったことから、京の都にも上記のように克明な情報が届いたのでしょう。

貞観時代は、自然災害が多発した時代だったようです。表に示すように、貞観地震に先立つ 6 年前の 863 年には、越中・越後で大地震が発生し、翌 864 年には、富士や阿蘇が噴火、前

年の 868 年には播磨・山城で大地震が発生しています。この時代には、福岡の直方（のおがた）に隕石が落下したり、海賊の来襲、疫病、干ばつや水害など、災いが続きました。このため、災いを治めるために御霊会が行われたようです。京都の祇園祭は、祇園で行われた御霊会を起源として 869 年に始まったと言われています。

貞観地震の後も、肥後、出雲、京都、千葉などで地震が相次ぎ、878 年には関東で、さらに 887 年には、東海・東南海・南海地震が発生しました。

兵庫県南部地震や新潟県中越地震・中越沖地震、東北地方太平洋沖を経験し、首都直下地震や、南海トラフ巨大地震の発生が懸念されている現代ととてもよく似ているように思います。

表 貞観地震前後の災い

年	西暦	できごと
弘仁 9	818	関東諸国で地震 M 7.
天長 4	827	京都で地震 M 6.5 ~ 7.0
天長 7	830	出羽で地震 M 7.0 ~ 7.5
承和 8	841	伊豆で地震 M 7.0
嘉祥 3	850	出羽で地震 M 7.0
貞観 3	861	直方隕石が落下。
貞観 4	862	海賊が横行、京中の水が枯渇。
貞観 5	863	越中・越後地震。畿内に咳病が流行。神泉苑で御霊会。
貞観 6	864	富士山噴火、阿蘇山噴火。長雨により餓死者多数。
貞観 7	865	疫病退散を願う大般若心経会。佐比寺で疫神祭
貞観 9	867	阿蘇山噴火、疫病が蔓延。餓死者多数
貞観 10	868	播磨・山城地震 M 7.0
貞観 11	869	貞観地震 M 8.3。新羅海賊。御霊会。肥後で大水害。
貞観 13	871	鳥海山噴火
貞観 14	873	咳病大流行
貞観 15	874	近畿大飢饉、開聞岳噴火
貞観 16	875	台風来襲。都は風害で大被害
貞観 17	876	干ばつ
元慶 2	878	相模・武蔵で地震 M 7.4
元慶 4	880	出雲で地震 M 7.0
仁和元	885	薩摩国、開聞岳大噴火
仁和 2	886	安房国で地震・雷など頻発
仁和 3	887	南海地震、東南海地震、東海地震 M 8.0 ~ 8.5



貞観地震のことは、正史にだけに残されているわけではないようです。小堀鐸二研究所の武村雅之さんに教えてもらい、飯沼さんの本に記されている末の松山（右の写真）に出かけてみました。末の松山は多賀城の近くに

ある宝国寺という寺の裏にありました。「末の松山」は、和歌に詠まれる歌枕で、清原元輔が後拾遺和歌集で詠んだ契りきなかたみに袖をしぼりつつ末の松山浪越さじとはが有名なようです。その他にも、

「古今和歌集」

君をおきてあだし心をわがもたばす糸の松山浪もこえなむ (東歌)

浦ちかくふりくる雪は白浪の末の松山こすかとぞ見る (藤原興風)

「後撰和歌集」 土左

わが袖はなにたつす糸の松山かそらより浪のこえぬ日はなし

「拾遺和歌集」 人麿

浦ちかくふりくる雪はしら浪の末の松山こすかとぞ見る

「金葉和歌集」 大蔵卿匡房

いかにせんす糸の松山なみこさばみねのはつゆききえもこそすれ

「千載和歌集」 藤原親盛

あきかぜは浪とともにやこえぬらんまだきすずしきす糸の松山

「新古今和歌集」 藤原家隆朝臣

霞たつす糸の松山ほのぼのと波にはなる横雲の空

「能因集」

す糸のまつ山にて白浪のこすかとのみそきこえける末の松山まつ風の声

「後鳥羽院御集」

冬見わたせば浪こす山のす糸の松木す糸にやとる冬の夜の月

などがあるようです。何れも、末の松山を浪が越さない、と記されており、津波がこの山を越さなかったようにも読めます。確かに、今回の震災でもこの山の上にまでは津波は来ませんでした。

一方、この山から少し離れたところに別の歌枕である「沖の石」がありました。沖から流されてきたような石が幾つかありました。この地を詠んだ和歌には、

「千載和歌集」 二条院讃岐

わが袖は潮干に見えぬ沖の石の人こそ知らね乾く間もなし

があり、袖が乾かない、と詠まれています。この場所は、今回の震災でも 2m 程度津波に浸かっていました。どうも、甚大な津波災害のことを後世に伝えているように思えてなりません。

1611年に起きた慶長三陸地震津波で津波が到達しなかった場所には、浪分神社や浪切不動が作られ、不動像が海を睨みつけています。また、この地震後に作られた奥州街道は、津波危険度が低い場所を通っています。これらは、先人の残したメッセージのようにも思います。

私たちも、一度、当地の郷土史を勉強してみてもはどうでしょうか。





9 お知らせ・掲示板

- ・ 7月8日(金)～7月9日(土) 本部一泊研修会
野島断層観察館・四国中央構造線など視察(募集締め切り)
- ・ 7月30日(土) 第2回本部研修 ファシリテーター講習
名古屋港防災センター
まだ募集していますので、ご希望の方は早川(090-2610-0357)
又は伊藤(090-4794-8863)までご連絡ください。
- ・ 第4回あいち防災リーダー養成塾受講者募集
9月18日(日) 名大環境総合館
10月8日(日) 岡崎市福社会館
10月22日(日) 岡崎市福社会館
11月12日(日) 名古屋港湾会館等
皆様の知人・友人などで受講をご希望の方は早川(090-2610-0357)
又は伊藤(090-4794-8863)までご連絡ください。

今後の予定

- 9月17日(土) 第3回本部研修 耐震化&家具固定講習
- 11月19日(土) 第4回本部研修 エコ防災グッズ等啓発講習
- 1月28日(土) 第5回本部研修 ガラス飛散防止フィルムの貼り方講習
- 3月24日(土) 第6回本部研修 みずから守る手づくり洪水ハザードマップ講習

ブロックイベント

- | | | |
|------------|----------|-------------|
| 10月1日・2日 | こうなん市民祭り | すいとびあ江南 |
| 11月5日 | 大口ふれあい祭り | 大口町健康文化センター |
| 11月22日・23日 | いなざわ福祉祭り | 稲沢市勤労福社会館 |

編集後記

A P L A 18号 皆様のご支援をいただきながら編集出来ましたこと心より感謝申し上げます。
杉浦 緑